

平成 26 年度「異文化理解」教育プログラム事業報告

(自平成 26 年 4 月 1 日～至平成 27 年 3 月 31 日)

1 平成 26 年度数値目標

1. 実施校数 年間 270 校(NE T 数)
2. 講義時間数 年間 1,950 時間

年度別実績推移 (資料①)

	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 目標	26 年度 実績	目標対比 +△
実施校数(NET)	245	268	270	300	+30
出講講師数(人)	1,107	1,163	(設定無し)	1,153	
講義時間数(時間)	1,903	1,952	1,950	2,011	+61
講師料(千円)	18,772	19,288	20,475	19,701	△774

活動の推移

実施校数(NET)及び講義時間数とも目標数値は、事業開始以来最高の数値が達成できました。

今年度は、1 年で 1 校につき申込みは 1 回のみ限定しました(国際高校など一部の学校を除く)ので、より多くの学校で講義を実施することができたものと判断しています。

26 年度「申込学校数」(複数回の実施校)は 320 校(資料②)で締め切りました。8 月までに 268 校と年間実施校の 84%が申込みを行い、10 月以降、学校の希望日に申込を受理することは困難な状況で、年々申込の早期化が進んでいます。

2 講師募集・研修と実施校の内訳

① 第 27 期生講師募集の改善

昨年度の講師応募状況は、最低の 83 名の応募しかなく講師の確保に困難な状況に陥りましたので、今年度は以下の対策を講じました。

1 募集時期の長期化 (10 月 1 日～11 月 25 日)

英語活動の募集が終了したので、秋の新学期が始まる時期に合わせて募集期間を長くしました。

2 ホームページ (HP)・フェイスブック (FB)の活用
HP からの応募が出来るようにし、また新たに FB を立ち上げて留学生の目に留まるように PR 効果の促進を図りました。

3 留学生講師の協力
留学生講師が新人の募集に協力してもらうようメールでの依頼と募集時期の前に懇親会 (バーベキューパーティ) を行い、協力を要請しました。

結果、121 通の応募があり 80 名の面接を行うことができ、36 名を合格者としました。

4 英語活動講師からの移籍
実質的に 26 年度で英語活動は終了するので、希望者を募り 9 名の英語講師に対し 3 月に研修を行いました。

② 新人講師の現場研修実施 (平成 27 年 2 月 1 日～3 月 20 日)

新人の講習会 (1/10・11) の後、現役講師の講義を実際に学校で見学し、体験学習をさせるため、プログラム開始以来、初めて学校現場での研修を実施、日本の児童・生徒の様子や学校の状況を体験させ、好評を得ました。
英語講師から移籍した留学生には、3 月に行いました。

③ 中学校の実施校が増加

昨年度と同様、数字が伸びた要因は、中学校の実施校の増加です。
昨年度は、中学校の実施校が増加しましたが、本年度は中学校・高校の大幅な増加が見られました。(資料③)

また、土曜日に授業を実施する学校が増加したため、土曜日の申込みが昨年度に比較し、増加したことも実施校増加の要因になっています。

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
小学校	57 校(23%)	59 校(22%)	62 校(21%)
中学校	131 校(53%)	157 校(59%)	177 校(59%)
高等学校	51 校(21%)	46 校(17%)	57 校(19%)
その他	6 団体(3%)	6 団体(2%)	4 団体(1%)
合計	245 校(100%)	268 校(100%)	300 校(100%)

3 学校からの講義の満足度評価

講義を実施した学校の先生からのアンケート方式で得た評価には大変高いものがあります。(資料④)

4 事務局の対応力の向上

① 申込から講義依頼まで業務分担

学校の依頼書及び留学生講師の出講について、梅村・岩澤で、渉外と書類作成業務及び郵送書類のチェック機能を明確にし、申し込みに対しミスなく対応できる体制を整えつつあります。

27年度より、学校からの講義申込みはホームページからを基本にシステムの改善を行いました。

また、英語活動担当の小島と経理担当の古賀の両名が、連絡業務の協力参加でより迅速な対応ができました。

② 富山常務理事及び堀内・宮地両シニアアドバイザーの学校へのアプローチ効果

昨年度より宮地シニアアドバイザー(現専務理事)が加わり、3名体制で留学生講師の現場指導の他に、学校長や担当者へのプログラム導入の説明努力が実ってきて新規校の増加、継続校の次年度への継続実施に結び付いてきています。

以上

II 平成 26 年度「英語活動」教育プログラム事業報告

(自平成 26 年 4 月 1 日～至平成 27 年 3 月 31 日)

平成 25 年度数値目標

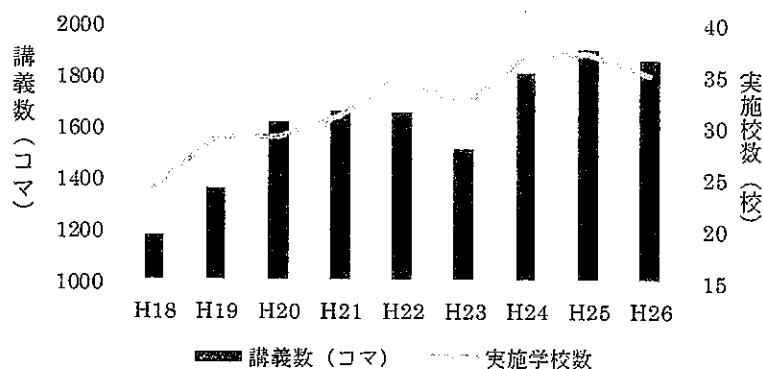
1. 実施校数	年間 35 校
2. 講義時間数	年間 1,800 時間

1. 数値目標からの乖離

年度別実績推移

	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度 目標・予算	26 年度実績	△+
実施校数(校)	35	32	37	37	35	35	±0
講義時間数(時間)	1,654	1,514	1,807	1,901	1,800	1,853	+53
講師料(千円)	10,114	9,196	10,996	11,522	10,980	11,254	+274

英語活動 推移



支援状況 (14 区市 35 校 新規校 1 校)

支援校数	市区名
5 校支援	大田区
4 校支援	八王子市
3 校支援	中野区・足立区・世田谷区・練馬区・多摩市
2 校支援	江東区・墨田区・新宿区・東村山市・稲城市
1 校支援	板橋区・東久留米市

2. 「英語活動」教育プログラム終息への準備

平成 15 年度から 12 年間にわたりのべ 350 人以上の留学生を派遣してきた「英語活動」教育プログラムの終息にむけ、平成 26 年度の実施校数は「現状維持」とし、一学期末（夏）から 2 学期始め（秋口）にかけて、実施校一校ずつを訪問し、「英語活動」教育プログラム終息の事情説明と理解を求めることに専念しました。その結果、どの実施校からも非常に惜しまれましたが、理解を得ることができました。平成 27 年度、以前より予定されていた研究発表支援の為、大田区の小学校 1 校のみ英語活動を 6 コマ実施する予定で、この実施をもって活動は完全終息となり、内閣府に業務内容変更の申請をすることになります。

活動最後の年ではあっても質を落とすことは不本意であるため、前年度同様、2 名の英語活動アドバイザー（太田美智彦氏・宇津木悦子氏）に留学生講師の現場指導を担当講師一人あたり年間最低 2 回、お願いしました。現場の受け入れ態勢に不備がある学校に対してはこの限りではなく、数回訪問も考えていましたが、平成 26 年度はその必要のある学校は一校もありませんでした。